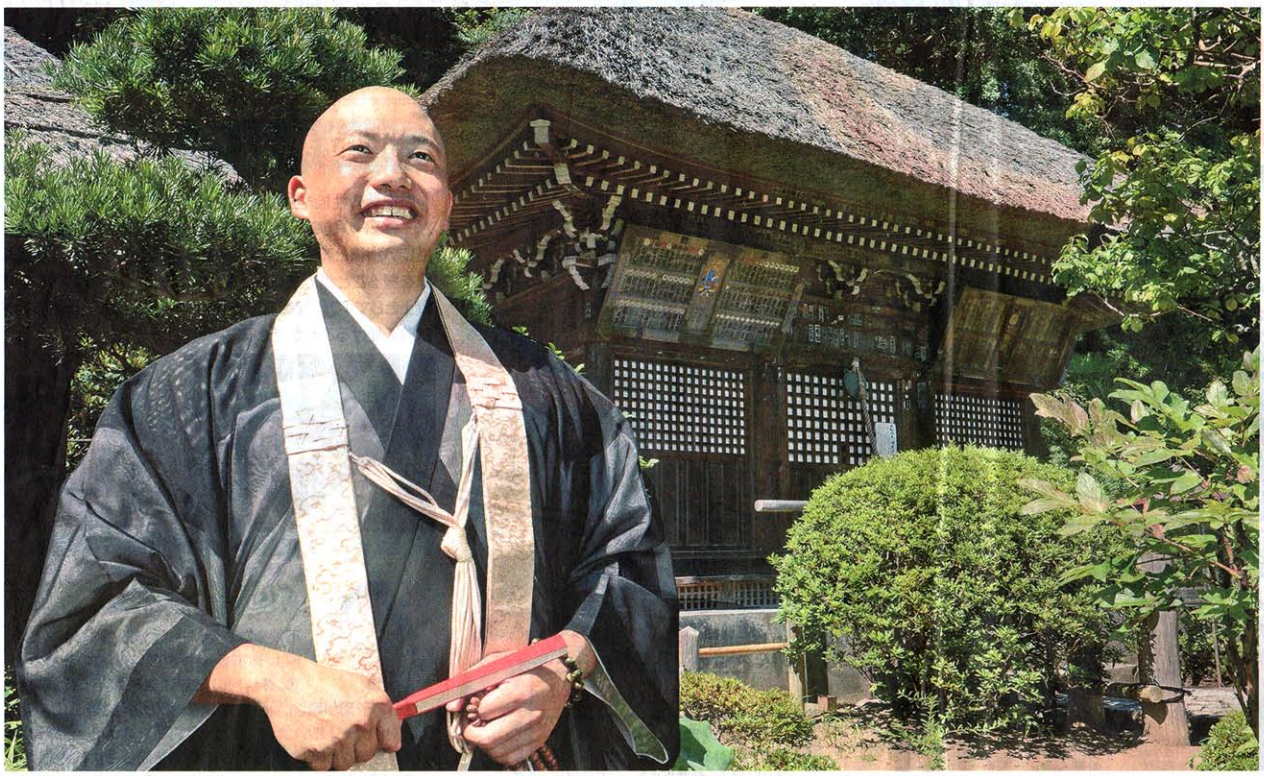
鎌倉街道

鎌倉十三仏巡り（神奈川県鎌倉市）



鎌倉十三仏について語る仲田晶弘副住職＝神奈川県鎌倉市の明王院で

街道ものがたり

修行の道 背筋伸ばし

鎌倉幕府の四代将軍・藤原頼経が一二三五年に建立した明王院（神奈川県鎌倉市十二所）。夏のある日、二十人の老若男女が訪れ、不動明王に手を合わせた。読経し、御朱印をいただく。明王院は、六浦（横浜市金沢区）と鎌倉を結ぶ「鎌倉街道六浦道」沿いにある。昔の街道の面影が残る、緑豊かな郊外だ。

一行は続いて、明王院副住職の仲田晶弘さん(三八)の案内で、歩いて報国寺へ向かう。観世音菩薩を前に読経し、次いで釈迦如来の浄妙寺へ。さらに覚園寺（阿閦如来）、来迎寺（阿弥陀如来）、本覚寺（文殊菩薩）の三寺を巡拝し、一日で六つの寺院を巡った。

十三仏信仰に基づき十三寺院に詣で、各寺院で読経し、御朱印をいただいて巡る。この「古都鎌倉十三仏霊場巡拝」は一九八三年、宗派を超えて鎌倉十三仏詣実行委員会が組織され、一番から十三番の札所が決まった。札所の順番通りに詣でなくてもよい。静かなブームになっており、巡る人は年間で五千人以上という。

別の日、今度は北鎌倉駅に集合。やはり「鎌倉街道」と呼ばれる県道を進み、弥勒菩薩の浄智寺、次いで地蔵菩薩の円応寺へ。さらに浄光明寺（勢至菩薩）、海蔵寺（薬師如来）、寿福寺（普賢菩薩）の三寺を巡った後、江ノ島電鉄で長谷駅へ行き、極楽寺（大日如来）と成就院（虚空蔵菩薩）を巡った。十三の御朱印を集め、「結願」だ。

鎌倉街道は、各地から幕府のあった鎌倉へ通じる街道の総称で、巡る寺院の多くは鎌倉街道沿い。市文化財課の玉林美男さん(六四)によると、各地からの鎌倉街道は、鶴岡八幡宮の前へとつながっているという。玉林さんは「十三寺なので、三十三観音などと比べ、コンパクトな分、巡りやすいのでしょう」とみる。

五年前からは実行委主催の「僧侶と巡る鎌倉十三仏」を毎月開催している。一番札所が明王院なので、仲田さんらが「先達」を務める。十三寺巡ると約二十キロあり、前半、後半の二回（二日）で歩く。これまでに参加者は千人を超えた。

仲田さんは案内を始める前、「満足していただけるだろうか」と不安だったという。ある寺では、住職から「仏像の近くで読経したいでしょう」と一般公開していない本堂に招かれた。読経が終わると、住職からは「お経をお供えくださり、ありがとうございました」と深々と頭を下げられた。

仲田さんは「参加者は観光客ではなく、修行する者として扱ってもらえて感激したと喜んでいましたよ」と話す。

参加者からは結願の後、「よい修行になった」「交通事故で亡くなった子どものよい供養になった」などの言葉が続いた。仲田さんは背筋が伸びる思いがしたという。「自分自身が修行させていただいていると思って、案内しています」

文・草間俊介
写真・梅津忠之

室町以降 各地に広がる

鎌倉十三仏　十三仏の信仰は室町時代に成立したとされ、参拝すれば亡き人の追善になると盛んになった。日本各地に十三仏霊場がある。各寺院の十三仏の御朱印を集め、その御朱印帳をひつぎに入れると極楽浄土に旅立つことができるという。鎌倉十三仏の御朱印帳は一番札所の明王院で購入できる。「僧侶と巡る鎌倉十三仏」は御朱印費、昼食、保険代など有料。次回は9月29日、詳細は「鎌倉十三仏」のホームページか事務局電0467(40)3044へ。

各地からの鎌倉街道は、鶴岡八幡宮前へと通じている

＊次回9月7日は「木曽街道・橋立」（石川県加賀市）です。